

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム四季の郷 富田
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	三重県四日市市東茂福町
記入者名 (管理者)	天野弘美
記入日	平成20年5月15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	従来の家庭的雰囲気をもとにした理念に加え、四季の郷憲章で地域に密着した介護を目指すことを掲げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念と憲章の実践については、引継ぎノート、気づきノートなどで日々問題点を洗い出しミーティング等において共有を図っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	毎月『いすず会たより』を配布、ホームページにより活動内容を紹介している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	定期的に色々な分野のボランティアの協力を得ている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、併設棟にあるギャラリーの開放により地域の人たちと気軽に交流できる場を設けている。また、県の環境活動評価を受けて環境活動による取り組みもしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設の見学やお試し利用で地域に開かれた施設を目指している。介護相談は親身に応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善点、指摘項目は運営者以下、管理者、職員の話し合いにより具体的改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、自治会長、民生委員及び外部有識者の参加のもと、現在の取組み等、報告と意見交換をしている。関係者の日程の都合上、二ヶ月に一回の実施は出来なかった。	○	今年度は二ヶ月に一回開催しています。次回は6月18日を予定しています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域の出先行政機関に毎月発行している『いすず会たより』を持参し、意見交換をしてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習、研修の案内を連絡帳に添付して希望者を募っている。	○	内部研修を計画し理解を深める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	緊急やむをえない虐待について、ケース会議を行い、虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時は診療情報提供書、面接(看護師同席)等により判定会議を行い検討している。料金の内訳は契約時に充分説明し資料を渡し了解を得ている。</p>	<p>○</p> <p>退去する際には入居者やご家族に十分な説明を行い過程・決定が明確である。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に介護相談員が来訪し、情報交換を積極的に行い、相談員の言葉を受け止め対応している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族に毎月発行する『いすず会たより』を送付し暮らしぶりを報告している。また、個々に健康状態や金銭管理等は写真を添付し書面にて報告している。</p>	<p>○</p> <p>体力測定を月1回実施し、3ヶ月ごとに測定結果をグラフ化したものを送付している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の来所時は気軽に声をかけられるような雰囲気作りをし、意見を聞いたり、苦情相談箱の設置や、文書に第三者機関の明示をするなどしている。寄せられた苦情、相談には速やかに対応している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>普段より、職員との会話を多くもつように心がけ、意見や提案を聞き、反映させている。</p>	<p>○</p> <p>『気づきノート』を作成し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ローテーション勤務であるが状況に応じて変更し必要な時間帯に職員を確保に対応できるように日ごろから話し合いをする機会を設け了解を得ている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員全体がご利用者の状態をよく把握した上で支援できるようにするため特定利用者の担当制ではなく事業所全職員によるローテーションを組みご利用者が全職員と顔なじみになるようにしている。その為に運営者は働きやすい環境づくり、同じ介護を提供できるように常に話し合いの場を設けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には新人研修を実施し、施設の理念、業務の全体像の理解を図る。外部研修後はレポート提出により伝達講習を行い、全体に周知を図っている。内部研修は毎月テーマを決めて実施し、職員の専門性向上に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市それぞれのグループホーム連絡協議会に所属し、相互訪問による活動や勉強会、見学会などの交流を通してサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が十分くつろげる休憩場所があり、心身を休めるのに適した設備を有している。また、個人面談を実施し、職員の意見を聴く機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場に出る機会を多く設け、状況把握に努めている。ケース会議やリーダー会議を必要に応じて開き、問題点・対応策を話し合っている。	○ 職員誰でも意見が出せるように『気づきノート』を使用している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者には、デイサービスやショートステイを利用していただき話を聴く機会を設けている。その際、利用状態を見て客観的にも本人の要望等を知るように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が話しやすい環境づくりをし、話を聴く機会を十分に設け、家族の意向を親身に受け止めるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員は専門的な知識の向上に常に努め、広い視野を持って相談を受け、一人ひとりが必要としているサービスを提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用やショートステイの利用、ご本人そしてご家族の施設見学などによって施設に慣れ親しみ、理解してもらった上でサービスの利用開始ができるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	和気藹々とした雰囲気の中で過ごす中で職員は昔ながらの知恵を入居者から教えてもらうなど毎日の生活の中で上下関係ではなく横のつながりを意識した『共に過ごし支えあう関係』を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られたときは、本人の近況を伝えたり、ご家族の要望を聴いたり会話を積極的に持つようしている。また、月に一度、ADLの状況を書面にし、いすず会たよりと一緒に送付している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	午前7時から午後9時の間は、いつでも面会していただけるようしている。また遠方からの面会の場合は、居室内に宿泊していただけるスペースは十分にあるので簡易ベッドの貸し出しを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には今まで使用し馴染みのある家具や布団などを持ってきていただき使用している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員がすぐに手助けするのではなく見守りということを大切にしていこうと本人同士が出来ない部分を補い合い自然に支えあっている。なかなか馴染めない方には、その人と気が合いそうな方の近くに席を誘導したりするなどの配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談があった場合、契約終了後も相談提供を図り支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートへの記帳と日々の会話の中で希望や意向を把握し、本人本位に生活が送れるように支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境を把握して個別ケアや個別リハビリ等に心掛けている。レクリエーション等に活かし、主役になる場面作りの支援をしている。(習字・生け花・おやつ作り等)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全ての介護職員は日勤だけでなく夜勤も行うことで現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのケアアセスメントや独自に作成した生活記録日誌などから日々の課題を探りだし、ご家族とも話し合いながら介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は3ヶ月ごとに見直しを行いご家族にも同意を得ている。変化のあったときには速やかにご家族と連絡をとり話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録を記入している。一ヶ月分の個別記録はすぐに見れるところに保管しているので職員は情報を共有できている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容院への送迎など本人やご家族の状況に応じて外出支援などの柔軟な支援をしている。	○	平成20年4月1日より近隣の高齢者が状況に応じて利用していただけるよう認知症対応型デイサービスを開設。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防の方に協力していただき定期的に避難訓練を実施している。積極的に民生委員の方々に施設見学していただいている。色々な分野のボランティアの方々に来ていただいている。	○	月に2回、音楽療法の先生に来ていただいている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者との連絡によるサービス利用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただき連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関と複数契約をしており家族や本人の意向に沿って納得の得られたかかりつけ医を決定している。ご家族による受診同行を原則としているが希望があれば通院支援をしている。必要に応じて往診もしていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	臨床心理士で大学教授の専門化によるコンサルティッドサービスを受けケアに活かしている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定に職員の秘密保持に関する規定があり、朝礼やミーティング等で書類の収納や言葉使いなど、プライバシー保護の具体的項目について意識の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	主観的事実を尊重し一人ひとりが伝えたいことをしっかり受け止め十分に話を聴き本人に分かるように伝え納得しながら暮らせるよう支援している。	○ 時折、居室を訪問し、ゆっくり会話する時間を持つよう心掛けている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが一人ひとりの体調や精神面を把握しその時の本人の希望を尊重して対処している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の要望に応じ理容店へ送迎するなどの支援をしている。また定期的に職員がヘアースタイルをしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	有料老人ホーム・デイサービスの併設で食事は一斉に提供しているが定期的に選択メニューを実施したり、おやつ作りなど計画を立てるなど支援している。	○ テラスにて、バーベキュー大会を実施し、外の気持ちよい空気を吸いながら食事をしていただいた。また、ドライブを兼ねてランチを食べに行った。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を飲むケースはないが、おやつやタバコはスタッフの支援で個別で楽しんでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時の声かけや就寝・起床時のリハビリパンツの確認、昼夜パットの使い分け等、一人ひとりに適した対応をしている。	○	必要な方には排泄チェック表を作成している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	有料老人ホーム・デイサービスとの共有風呂も利用しているため午前中入浴となっている。他の時間帯での入浴希望者はいないが希望があれば希望にそうように努める。	○	入居者の要望により個別で入浴を実施している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない方がいるときには、十分に話を聴いたり、そばにいて安心して環境づくりに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、食卓テーブル拭き、お膳拭き、生け花等、一人ひとりが得意とされることをみつけ、主役となる場面づくりをしている。個別ケアで楽しみを作るようにしている。	○	茶道や書道などのクラブを作り、本人の希望をきいて参加していただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は認知症の進行の度合いにより支援方法を変えている。	○	必要物品等は買い物にできる機会をつくり、買い物を楽しく行えるように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の周囲1キロメートルの散歩が日常の日課となっており、買い物や行楽など車での外出支援もしている。	○	レクリエーションの一環として四季を感じる外出を設けている。(初詣・お花見・公園へ散歩・ドライブ・外食)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	基本的にはご家族の協力を契約時にお願いしている。(外出・外泊・墓参り等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じているが、認知症の進行の度合いやその時々 の精神状態によって支援を変えている。(家族の意向と本人の要望を調整して支援を図っている。)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	午前7時から午後9時まで、いつでも面会していただけるようにしている。またご家族等の希望に応じて宿泊も出来る。面会しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を理解している。緊急やむをえない拘束はケース会議で検討しご家族の了解を得る。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は無施錠である。玄関は二重扉構造で内扉と外扉の間の土間空間は広く、外扉はチャイムが鳴り内扉は自動押し扉で勝手に開放できないが、希望があれば職員がついて出るなどのケアをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は責任を持って居場所を把握する職員がいる。夜間は2時間おきに巡視を行い、所在や様子を把握している。	○	センサーマットの使用で入居者の安全を確保できるように環境整備を図っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや爪きりなどを使える入居者は一人いるが他の入居者が使用しないような管理ができないので職員が管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	AEDの設置、定期的に消防避難訓練を実施している。また緊急事態発生時に備え職員の緊急連絡網を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	<p>排便チェックを行っているが認知症のため信頼性が低いので排泄後の声かけをするなどをして、その人の排便習慣を把握するように心掛けている。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が考えているが管理栄養士のチェックも受けていて栄養バランスは確保できている。摂取記録もその都度記録し一人ひとりの状態確保をその人に合わせた食事量を提供している。水分は毎食事時、9時、15時にお茶を出し水分確保に努めている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者はトイレ後、外出後、食前に手洗い、アルコール消毒をしている。職員は作業が変わるごとに手洗い、消毒を行っている。口腔内や汚物に触れるときには手袋をはめてケアする。	○ 感染症流行時期は外出後、夕食前にイソジンでうがいを実施している。共用の空間は清掃後、消毒を行っている。共用リビング、トイレにはジェットタオルを設置している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	地域の専門店で最大の吟味をして新鮮な食材を購入している。	○ 毎食、検食を行い一週間保管している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りにはプランターに花を植えるなどして四季折々の花や木で緑のある明るい雰囲気作りを心掛けている。	○ レクリエーションの一環として、花のお手入れをする時間を設け、入居者の方々にも協力していただいている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファが置かれ季節に応じた手作りカレンダーや壁飾りを飾り居心地よく過ごせるような雰囲気作りをしている。デイサービスとの広々としたリビングの共有空間やテラスに自由に出入りできるようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや機械マッサージを設置している。テラスに自由に出入りできるようにしている。	○ 相談室には絵や写真などを展示し、くつろげる空間を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるまで使用されてきた馴染みのある家具を置くなどして混乱防止に努め、本人とご家族の好みに応じ居心地よく過ごせる部屋作りをしている。カーテンの色なども配慮している。また消臭にも気を配っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、布団干しをこまめに行っている。共有空間に消臭機、空気清浄機を設置している。	○	適温を保てるように室温管理表を作成している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が一人ひとりのADLを把握し、その方が出来ない部分を手助けし、出来ることを本人の負担としない範囲で役割としていただくことで残存機能を維持する。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生け花・茶道・カラオケ・掃除・洗濯物干し・たたみなど主人公となる場面作りに心掛けている。	○	パソコンによる脳トレーニングを実施している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスに自由に入出入りできるようにして、外の空気を吸えるようにしている。外回りを散歩している。	○	レクリエーションの一環として、建物の外回りのお花のお手入れをしていただいている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設入所で家族と分離されたという不安感を軽減するように最大限支援を図る。家族に働きかけて、面会や外出などご家族との交流を支援している。安心・安全に過ごせるように、医療と連携し体調管理、バランスのとれた栄養、適度の運動に努めている。個別ケアで一人一人の楽しみを提供している。ご利用者様の要望でクラブ活動を実施している。地域のボランティアを積極的に受け入れ交流に努めている。四季折々の花見・散歩・買い物・外食等の外出支援を図っている。食事は手づくりで選択食を取り入れ満足してもらえるように力を入れている。散髪はご利用者様の要望で無料にて提供し喜んでいただいている。また研修等で認知症ケアの専門性を高めよりよいケアの提供により、ご利用者様の笑顔そして、職員も生き生きと働ける環境の整備に努めている。